

令和6年度 長岡市内遺跡発掘調査

(1) 調査件数

本発掘調査 1件

試掘確認調査 4件

(2) 調査一覧

	地域	調査地	調査原因	成果
本発掘	長岡	長岡城跡	ホテル建設	三の丸北側の堀跡を検出
試掘確認	寺泊	大河津分水路地区	大河津分水路 改修事業	遺構なし 遺物/土師器 ⇒蛇塚竹ヶ花遺跡として登録
	長岡	転堂遺跡	宅地造成	遺構・遺物なし
	長岡	黒条地区	県営ほ場整備	遺構・遺物なし
	川口	ササラ西遺跡隣接地	水道施設建設	遺構・遺物なし

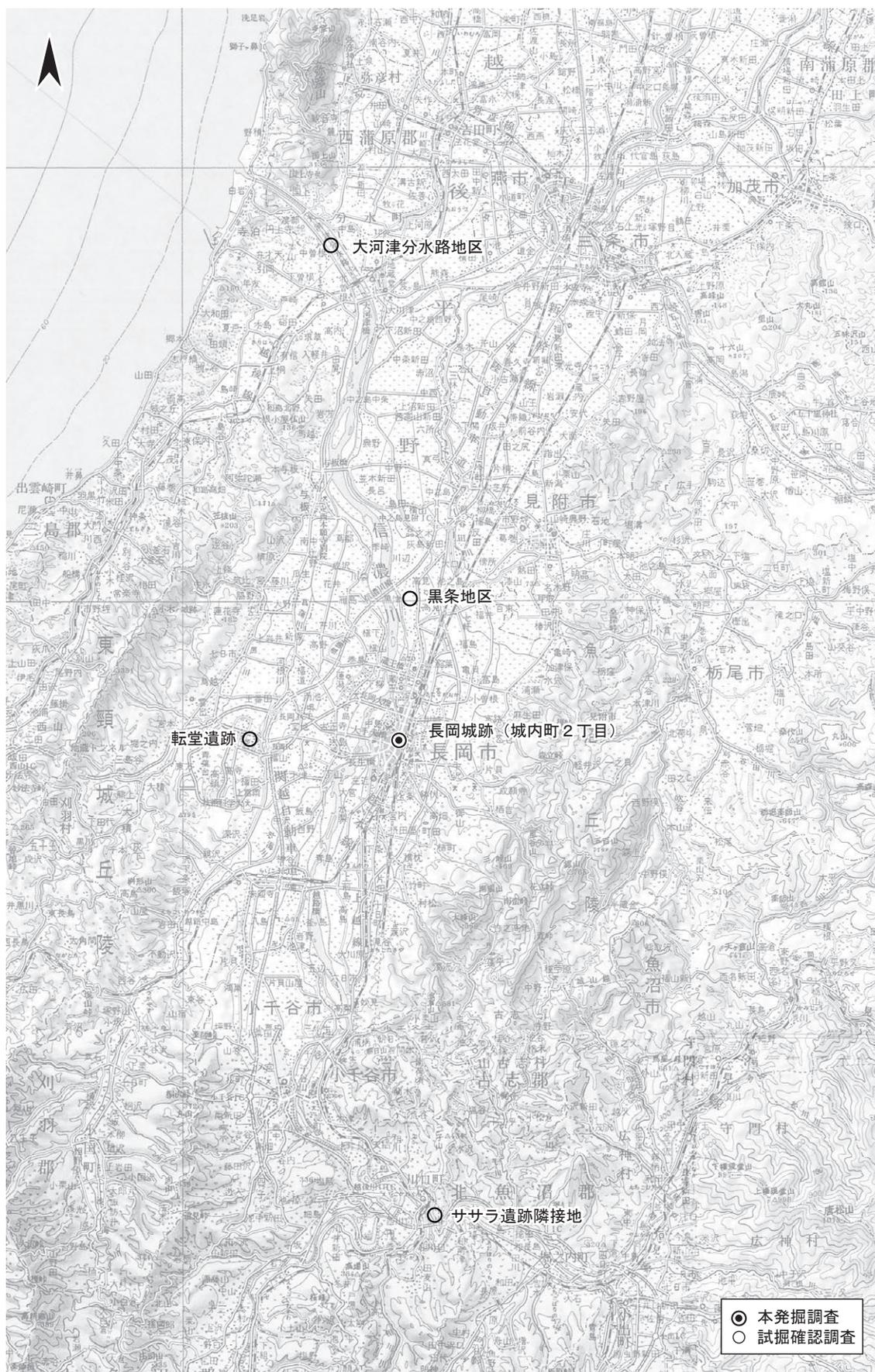
(3) 長岡城跡発掘調査の成果

ホテル建設に伴う本発掘調査（調査面積 496 m²）である。調査地は、これまでの開発により攪乱を受けているため、地表下約 1.5m までは重機で掘削し、その後精査を行った。

検出した遺構は、三の丸北側の堀跡で、当時の絵図面から想定される縄張り図の堀の位置とほぼ一致していることが判明した。

堀跡内及びそのほかの遺構からは肥前系陶器が出土しており、おおむね 17 世紀後半以降のものが中心となっている。このほか、漆器小皿の優品や木簡などが確認されている。

現在報告書刊行に向けて整理作業を実施しています。



令和6年度調査位置図 (1/250,000)

調査位置図



調査位置図

遺構配置図・土層断面図



遺構平面図・断面図



遺構検出状況

内堀⇒



内堀検出状況



磁器（上段）、陶器（下段）



木製品（木簡）



木製品（漆器）



金属製品（錢貨）



金属製品（釘）



石製品（礎石）

第3回長岡市文化財保存活用地域計画策定協議会について

開催日 令和6年11月28日（木）

議題

(1) 文化財の保存活用に関するアンケートについて

指定指定文化財の所有者に対して行ったアンケートの結果の検討。アンケートの内容は、文化財の保存状況や防犯対策の有無、公開活用に対する取り組みや継承していくための取り組みなど。

(2) 長岡市の歴史文化の特性について

第3章

- 1) 豊かな自然環境とともに歩む長岡の暮らし ー守門岳から日本海までー
- 2) 信濃川水系の水資源 ー水とともに生きるー
- 3) 多様な交通の要衝と結節点 ー越後平野の玄関口ー
- 4) 武家政権による城下町と文化 ー上杉氏の戦略拠点から長岡藩の商業都市へー
- 5) 長岡のものづくりと産業 ー手工業から近代産業への軌跡ー
- 6) 不撓不屈の不死鳥・長岡 ー戦災・災害からの度重なる復興ー

上記の内容について協議し、信濃川流域全体の中で長岡市が果たしてきた役割について注目すると長岡市の特性が見えてくるのではないかといった意見をいただいた。

(3) 文化財の保存活用に関する目標（将来像）について

将来像の方向性を「知る」「守る」「活かす」「伝える」「育てる」の5つを軸にすることについて検討

(4) 文化財保存活用の課題・方針・措置について

文化財をとりまく現状を踏まえ、保存活用の課題・方針・措置について検討

「地域に任せるのではなく、行政が橋渡しできるといい」「建造物の維持管理方法などは専門的な視点での指導してほしい」「市民が主体となって取り組む活動があってもよい」といった意見をいただいた。

次回は、令和7年3月26日に第4回策定協議会の開催を予定。